

特別講演 2

「外来診療の pitfall 一帰してはいけない患者症例―」

聖路加国際病院 救急部部長

石松 伸一 先生

救急外来でも一般の外来診療でも、いったん帰した患者の容体が急激に悪化して、救急病院に運ばれた、あるいは亡くなった、という話はしばしば耳にします。患者さんやご家族にとってはもちろんですが、医療関係者にとってもとても心苦しく、暗くなる話題です。こういうことを経験したいためにはどうするか、それは急激に悪化する病態、疾患を理解しておくことと、他者の経験を共有しておくことが大切です。

講義ではまず、急変を起こす疾患や病態を説明し、実際にあった事案を供覧します。

また、院内では入院中の患者さんの急変がしばしば発生します。患者さんの急変を分析していると、その共通点があることに気づきます。この共通点の1つにコミュニケーションエラーがありますが、チーム医療を円滑に進めて、医療の安全を担保する手段として「チーム STEPPS」という手法があります。すでにご存じかもしれませんが、ここで謳われているコミュニケーションのツールもご紹介します。